

special feature 3つの「全社改革運動」

ビジネスアイデアコンテスト「Denka Innovation Day」

デンカは経営計画「Mission 2030」で掲げるスペシャリティ・メガトレンド・サステナビリティに関連した新たな事業の創出を目指して、従業員を対象に新規ビジネスのアイデアコンテスト「第一回Denka Innovation Day（デンカイノベーションディ）」を開催しました。

今回は74件の応募があり、2024年2月には最終審査に勝ち進んだ6案件のプレゼンテーションを公開で実施し、オンラインを含めて約500名が聴講しました。第1～3位には賞金が授与され、優勝者の新規ビジネスアイデアは事業化に向けた検討を進めました。

第1回開催「Denka Innovation Day」審査概要

一次審査(74件):書類

二次審査(20件):プレゼン

最終審査(6件):発表会

優勝者
(1名)
賞金100万円、
事業化を検討

Denka Innovation Dayは、新規事業の創出だけでなく、コアバリューの1つ「挑戦」の社内浸透や、未来に向かってワクワクできるような企業文化を醸成するために始まった取り組みです。

デンカにとって意義のある提案か、実現性があるか応募者の事業化に対する思いなどの観点から審査しました。

応募者のアイデアをより具体的なものにするための専門家によるフォローアップを行うことで、参加者は事業化のために必要なプロセスや視点を学ぶ機会になりました。

第1回を実施したことで得られた知見を活かし、次回の開催に向け、改善を重ねていく予定です。

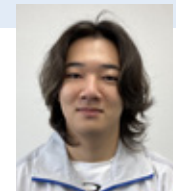


タウンホールミーティング・ランチミーティング

経営計画「Mission 2030」の3つの成長戦略のひとつ「人財価値創造」を進めるには、デンカのコアバリュー「挑戦」「誠実」「共感」を業員一人ひとりが追及することで、自己成長を実現できる会社になることが重要です。当社はこのコアバリュー浸透策の一環として、経営層と従業員の双方のコミュニケーションを深める「タウンホールミーティング」と「ランチミーティング」を開催しています。これまで直接言葉を交わす機会の少なかった経営層と従業員が交流し、心理的な距離を縮めることで、どのような立場であっても声を上げやすく、お互いの挑戦を後押しする社内風土の醸成を目指します。

VOICE 参加者の声

タウンホールミーティングに参加し、今井さん(社長)が経営方針や具体的な施策について詳しく説明してくださいました。日々業務をする中、入社2年目で仕事に対する不安を抱いていましたが、今井さん、石田さん(常務)のアドバイスにより不安が解消され、安心して仕事に取り組めるようになりました。普段の業務で関わることのない他部署の方々の意見や悩みを聞くことができ、とても有意義な機会でした。



伊勢崎工場 第一製造部
カバーテープ課
星野 達也

Improvement Committee発足と改善施策提案制度導入

1. Improvement Committeeとは

Improvement Committee(以下I.C.)は全社変革運動の一環です。I.C.は現場で起きている課題の把握と案件毎の対策を協議し、実務担当部門でのスピーディーな対応・解決につなげる組織です。改善施策提案制度を導入、現場の無駄や非効率、組織上の課題や問題点等、幅広くダイレクトに意見を収集しています。スピーディーな対応を目的に、経営層レベルでの応募案件の確認と分類、課題解決の優先順位付け、実行組織の割り振りを決定しています。

2. 具体的な取り組みの内容・状況

I.C.には2024年3月の開設以降、提案が全社から寄せられており、一件一件を検討し、その結果を提案者へフィードバックしています。具体的な事例としては、社内会議の出席者厳選や社内手続き時間短縮といった即時改善につながるもののほか、全社で使用する「メールガイドライン」を設定し、不要な連絡を制限することで、組織全体の業務効率化に寄与するような取り組みを実施しています。2024年8月までに実施した施策の改善効果としては、年間3,200時間の労働時間削減(デンカ本体)を見込んでいます。提案制度の活用を促すべく、事業所別にI.C.の取り組みを紹介するほか、社内ポータルサイトで定期的に成果を公開しています。